

Topに
聞

緑を取り入れた商環境が盛んに提案されてきた。商業施設や小売店がサードプレイスとして憩いや癒やしの空間を提供し、体験価値の高い施設作りで顧客を集めます。コロナ禍でますます緑を取り入れたランドスケープの重要性が高まり、屋上や壁面を緑化したビルや商業施設と公園を合体させたケーブル増加中だ。日本固有の緑（在来種の山野草）を使って里山の風景を再現した商空間を提供し、施設や店舗、まちを「ランド化する事業を行っている。（小川敬）

日々の暮らしの中で「季節」を感じる機会が少なくなってきました。原因の一つが都



ゴバイミドリ(5×緑)代表 宮田生美氏

市化で、日本固有の草木が身近なものでなくなってきたことが大きいと感じています。当社が守っているのは、日本の在来種からセレクトして植栽し、季節を届けることです。季節には日本人が持つ季節感や自然観、それに裏打ちされた暮らしの楽しみや文化まで含意しています。自然の巡りは暮らしにリズムを刻み、過ぎていく時間に折り目を付けてくれます。

昨年12月、京都・河原町にグッズネイチャーホテル京都が開業。吹き抜けの中庭自体が四方を緑の壁で囲まれた壁面緑化を施しまし

た。ここを訪れる人々に安らぎと癒しを与える空間を提供しています。京都周辺の在来種が生育する草木を都会の景色の中に移して、「ここは京都なんだ」という京都らしさを感じ、印象付けられる場所を演出しました。街中に出現した癒しの空間がホテルのブランドイングに大きく寄与してくれると期待しています。

昨年11月、東京・下北沢駅前に開業した「シモキタフロンティ」の緑化計画も担当しました。下北沢はとても緑が少ない街で、駅周辺には樹木が一本もない。憩いの空間と街のブランド化には緑が必要というビルオーナーの思いもあって、里山に自生する在来植物だけにこだわり100種類以上を植栽。春夏秋冬で表情が変わる自然と時間を提供しています。

「心が安らぐ緑で季節を届けたい」「在来種で地域のしさを大切にしたい」「パブリックな価値をもたらしてくれます。その場所らしさが感じられます」と、その面白さを感じています。

里山の植物で施設・街作り

その場所の特徴を作り出す

■ 日々の暮らしの中で「季節」を感じる機会が少なくなってきました。原因の一つが都

ックな場所・空間の価値を共有したい」、そして「無理なく育てたい」という思いから里山の植物は独自に開発した「里山ユニット」と呼ぶ「在来植物」「人工量化土壤」「かご・金網」「人の手」という四つの要素を組み合わせ、ビルや商業施設だけでなく、カフェやヘアサロン、ファッショングなど幅広い業種業態に、日本の緑や自然を届けています。華やかな美しい花々が街を飾ることを否定しませんが、デザインされた美しい緑よりも、どこか懐かしい自然な感じの緑が人々の心を癒やし、居心地の良い場を生み出してくれます。当社の緑化システムの生みの親であるランドスケープデザイナーの田瀬理夫さんに「パブリックマインド」ということを教わりました。たとえ、プライベートな空間であっても、緑はパブリックな価値をもたらしてくれます。その場所らしさが感じられます」と面白さを感じています。